

行政視察報告書

平成26年1月

議会運営委員会議会改革小委員会

- 視察実施日
平成26年1月24日(土)
- 視察先
宝塚市男女共同参画センター
- 調査事項
議会報告会の状況について
- 視察議員
委員長 中川正則
委員 岡崎義樹
委員 浅田康子
委員 坂部武美
議長 林 晴信
随行 岡村 稔 (議会事務局長)

宝塚市報告会の状況等

1 宝塚市の概要

- (1) 人口
234,097人(25.6.1現在)
- (2) 議員定数
26人
- (3) 面積
101.89km²

2 報告会の状況

- (1) 開始年月
平成23年8月から
- (2) 年の開催回数
年4回(定例会の開催回数と同じ)
- (3) 延べ開催回数
11回
 - 平成23年度 第1回…23.8 第2回…23.11
第3回…24.1
 - 平成24年度 第4回…24.4 第5回…24.7
第6回…24.10 第7回…25.1
 - 平成25年度 第8回…25.4 第9回…25.8
第10回…25.11 第11回…26.1
- (4) 開催会場数
 - ・第1回から第4回まで2会場
 - ・第5回以降3会場
- (5) 今回の開催会場
 - ① 男女共同参画センター

- ② コミュニティセンターひばり
- ③ さらら仁川多目的ホール
- (6) 開催時間
各会場 2 時間程度
- (7) 参加議員
全 26 議員を 3 グループに班分け
- (8) 視察会場及び参加者数
 - ・ 会 場：男女共同参画センター
 - ・ 参加者：12 人（男性 8 人、女性 4 人）
- (9) 報告内容
 - ① 12 月定例会における 3 常任委員会（総務、文教生活、産業建設）と決算特別委員会の審査内容を委員会ごとに報告、質疑応答
 - ② 総括的な質疑
- (10) 配布資料の記載内容
委員会報告書として、各常任委員会、決算委員会ごとに次の事項を記載した資料記載内容を配布
 - ① 一覧表…審査した議案番号、議案の名称、審査結果
例：可決（全員一致）、委員会での採決日
 - ② 審査の状況として…議案審査した年月日、審査した委員の氏名（正副委員長職と欠席議員も明示）
 - ③ 議案ごとに…議案番号及び議案名、議案内容の概要、論点、委員の質問に対する理事者の答弁の概要（一問一答）、自由討議の有無、討論の有無、審査の結果
- (11) 会場での意見等
 - ・ 参加者から市立病院の累積赤字が膨大な額となってきたっており、その解決策を真剣に考えないといけない時期に来ているにもかかわらず、議員は、無関心でいるとの意見があった。
 - ・ 参加者から、市職員の不祥事に対する処分について、市職員が勤務時間中に副業により収入を得ていた処分が停職 6 か月である。
これは軽すぎる処分であり、議員は、理事者に対して意見や追及を行ったのかとの質問があった。
 - ・ 出席議員より、この会は報告会であり個々の質疑は、別の機会に議員から説明するとの答弁がなされた。
 - ・ 参加者から、市計画上の、宝塚ガーデンヒールズの土地利用計画等の今後の推移についての質問に対し、出席議員から、理事者から説明等を受けていないとの答弁がなされた。
 - ・ その他、地方交付税の減額に伴い職員給与を減額した条例が可決したことに対し、参加者間で、賛否両論の議論がされ、司会者の議員が制止された。

所 感

委員長 中 川 正 則

1月25日(土)午後6時、天気予報は夕方から雨、会場は宝塚駅の近所の男女共同参画センター。市民の集まりやすそうな会場なのに、参加者が少ないのが気になった。

年4回の開催となると、当然、冬と夏の時期でも実施しなければならない。やはり1月のこの時期で、雨降りともなると、参加する人も厳しいと思われる。

会場入り口でいただいた報告会資料の分厚さ(86ページ)に圧倒された。議案に対する各委員会の議論の内容が明記されており、委員会での質問と答が詳しく書かれていること、議案に対して論点をはっきりさせた記述が内容をより解りやすくしているように思える。

委員会ごとに議案の説明をし、委員会ごとに質問を受ける方法。3つの常任委員会と決算特別委員会の4部構成で、市民からの質問に担当の委員が答えて、最後にもう一度総括しての質問を受ける。その後、その他の質問として懇談会形式で質疑応答を行い、約1時間で終了。

全議員24名を3分割し約8名で、3委員会、特別委員会、司会者、記録者で構成し、市内3か所で開催されている。

12月定例会終了から報告会までの準備期間が短いのは、定例会の会期が長く、決算委員会の採決が10月29日、常任委員会は11月26日前後と早い。3月定例会は2月14日から3月27日までの42日間が予定されている。

次回の報告会の告知によると、4月11日から3日間3会場で実施とある。他に議会報「かけはし」、案内チラシ、案内ポスター、市広報「宝塚」、エフエム宝塚、議会ホームページ等、いろいろな案内があるようだが12・13日は、午前10時からとなっているが、どのくらいの効果があるのか知りたいところである。

参加人数の減少はどこも同じ悩みがある。日程や時刻の問題ではなく、地区に応じた住民の関心、期待を反映した懇談を盛り込んだ報告会も一考の価値があるのではないだろうか。

委員 岡崎 義樹

今回、宝塚市議会の議会報告会の状況を視察した。宝塚市議会の議会報告会は平成23年8月から実施され、当初は年2回の開催であったが、平成24年度からは定例会の翌月開催とし、年4回の実施とされている。会場も、当初は2会場であったが、平成24年度からは3会場となっている。

西脇市議会と単純に比較することはできないが、宝塚市の人口228,000人に対して、参加人数が視察メンバー6名を除くと12名で、少ないことは否めない。

宝塚市の議員に、報告会参加の呼びかけを行っているかと質問したが、発足当初からされていないとのこと。お知らせ自体も市の広報、議会報等以外は行われておらず、各議員の後援会等へも参加を促すことはしていないとのことであった。ただし、人口の少ない地域の会場によっては、声掛けをしている模様であった。

議会報告会の内容は、12月定例議会についてであり、決算審議の内容が主となっていた。議員数が24名であるが、報告会の会場数は3つと少ない。8名が会場ごとに分かれているためか落ち着いた雰囲気を感じられた。

資料等に関しては、決算審議だったため89ページと膨大な資料で、こと細かく議論した内容の説明資料が配布されていることに驚いた。

その中で質問が出るのか疑問だったが、市民の関心度についてのみの質問がされていた。何回か参加された方なら、報告会の内容や進行状況を把握されていると思うが、そういう方ばかりではないので、初回の方では、資料が多いとなかなか質問も出にくかったのではないかと思われる。

各常任委員会の担当者が、重点議案等の説明や答弁を行っているのは他の議会と同じであった。会場は、宝塚市駅前の男女共同参画センターで、夕方6時から2時間の報告会は、帰宅時間に合わせて参加することが可能で、地域にあった時間帯で行われている。

しかし、説明が1時間超は少し長い感があった。市民からの意見や質問もあるとは思いますが、議案内容を理解していないとなかなか質問はできないだろう。実際、市民からの質問は3～40分程度で終了しており、この報告会についての市民の考え方が知りたい。

書類とにらめっこでは質問は難しいと思われる。ある程度、内容を理解しておく必要があるのではないか。宝塚市議会と比べるわけではないが、報告会時の毎回のアンケート調査結果を知りたい。

3年目となる宝塚市議会の報告会も含め、会場数や担当議員の割振り等はそれぞれの議会が決めることであり、本市議会とも異なる。

しかし、市民が期待している議会報告会とはどういうものかは共通の課題である。もっと市民の声を聴く場であり、意見交換会の場であり、要望会等を聞く場であってこそ、議会への関心度も増してくるのではないかと思う。

本年度の議会報告会は改選後でもあり、久しぶりだが市民アンケート調査を取り組んでみてはどうかと思う。

委員 浅田 康子

1月25日土曜日午後4時30分に西脇を出発し、宝塚市議会報告会に参加した。場所は、阪急宝塚駅前のビルの男女共同参画センター学習交流室。開会30分程前に着き、まずは宝塚の議員さんにあいさつをし、資料をいただき席に着く。

開会時間になるが参加者が少ない。議会から6名・司会1名・記録1名の計8名の議員、市民参加は12名と私たち7名の計19名。

平成25年12月定例会の4つの委員会報告があり、それぞれの委員会に質疑が行われた。発言されたのは5名の同じ方で、印象に残っているのは、質問される方は委員会の内容を詳しく知っておられ、また調査もされている様子。市職員の不祥事に関し、市長・市議・職員へ厳しい批判の発言。「宝塚に住んでいるというのが恥ずかしい」との発言も…。委員会への質問も多々あった。

感想は、議会報告アンケートを実施されていたことが参考になった。報告会資料が詳しく、わかりやすく作成されており、よく理解できた。また、次回の報告会の開催日時や場所が知らされており、告知は大事だと思った。

たくさん勉強させていただき、参考になることもいろいろあったが、帰りの車の中、私は何かスッキリしない気分だった。課題等は以下のとおり。

- ① 報告会の参加人数の多い・少ないをどのようにとらえるか、多いから良い・少ないのは良くないとするのか？
- ② 開催の時期・時間・曜日・場所等を考える必要がある。
- ③ 質問される市民の態度・ことば使い、また、議員の答弁は明確であったか？
- ④ 委員会報告以外の質問は受けないとするのか？
- ⑤ 告知の方法を考える。

西脇市議会も報告会も改善すべきは改善し、宝塚に学ぶところは積極的に取り入れ、市民の方に理解していただける、より良い、意義のある報告会になるようにしたいと思う。

委員 坂 部 武 美

西脇市議会は、平成22年度から5月と11月の年2回、各地区8会場に出向き市民との意見交換を兼ねた議会報告会を開催している。3年を経過し、地区によっては参加者の減少が見られる中で、西脇市議会基本条例第18条「議会報告会」には、「議会としての説明責任を果たし、市民の意見聴取による議会活動の改善を図るため、市民との意見交換、議会の運営改善、政策提言等に生かす」としていることから、小委員会において改めて議会報告会を見直すこととなり、今回、宝塚市議会の議会報告会を視察することとした。

報告会は、生涯学習課長時代に会議で訪れたことがある宝塚市男女共同参画センター4階で行われ、フロアでは多くの市民が本を読んだり、打ち合わせをしたりと広く利用されている中を通り、会場の会議室に入る。開会は午後6時からで、参加者は報告側の議員8名に対し、人口23万人の市であるが市民参加は12名であった。

報告会は、西脇市の年2回8会場に対し、定例会後の年4回3会場で開催されている。宝塚市議会議員数は26名であるので、8名ずつで3会場に分かれているのだろう。

参加者数は、宝塚駅前という立地条件が良い場所での開催であったにもかかわらず、12名は少なすぎると感じた。エリアが広いということもあるだろうが、3会場だけでは、単に、報告会を実施したということだけになってしまっていると感じた。

宝塚市は地域コミュニティが活発なまちであり、私もまちづくり課時代には、中山台や逆瀬川コミュニティの送迎運行や地区コミセン機能などを視察したことがあり、こういった地区へ出向いての報告会を開催すれば、市民意識が高いまちであることから、もっと多くの市民が参加していただけるのではないだろうかと残念に思った。

開会が午後6時と西脇市と比べれば早いのは、勤め帰りに寄れるからだろう。

開会あいさつの後、総務・文教生活・産業建設常任委員会、決算特別委員会それぞれから委員会報告書に基づき報告があり、参加者の何名かが意見を言われた。

一般職員の給与改正には、賛成と反対の意見が出たり、公共施設老朽化の対応、リースか買い取りかの比較、市債の現状など、かなり突っ込んだ意見が出されるなど、しっかりと勉強・研究されている人が参加し、質問していると感じた。

ただ、議員側の回答は「これは報告会ですから」と、あまり詳しく触れたがらず、的確な回答となっていなかったことは、23万人という大きなまちのせいだろうか、議会と市民との距離がありすぎると感じ

た。

報告会の方法については期待薄であったが、参考とすべきものもあった。

- ① 報告会の開催については、市民の声を聴く場をできるだけ多く設定する上でも、現在の2回から4回開催へ検討が必要ではないか。
- ② 報告会の資料については、宝塚市は議案名、議案の概要、質問と回答内容の掲載など、86ページに及ぶ報告書を作成しており、議会での討議内容がわかりやすい資料であった。西脇市も誰がまとめるかの課題はあるが作成すべきではないか。
- ③ 報告会に限らないが、質問には的確に答えられるよう情報収集を行うなど、能力を高める必要がある。

以上のことも含めて、小委員会で検討し、早急にまとめていかなければならないと思っている。なお、できれば、西脇市と同規模の市の報告会を再度視察したい。

市議会議長 林 晴 信

議会報告会はどうやら各議会とも悩みのタネで、先日行われた東播淡路議長会でも、各市議会からの議会報告会の現況報告があったが、芳しいものはどこにもなく、それどころか議会報告会に後ろ向きな発言も散見された。

議会報告会を年1回以上開催と義務付けている議会基本条例が大半だが、どうもそれをこなしているだけの感は我が西脇市議会でも見えぬことはないようにも思える。

そもそも議会報告会は、議会の情報公開や議決の説明責任を果たす場として行うものなのだが、往々にして「議案の内容説明」だけに終始してしまい、肝心の「なぜそういう結論に至ったのか」というのが抜けてしまっていることが多い。

しかも、下を向いて延々と説明文を読んでいるだけというスタイルにもなりがちなので、参加者も退屈なことこの上ないものになってしまっている。現在はパワーポイントなどを使い、多少は視覚に訴えているが、技術不足ということもあり、まだまだ参加者増に貢献しているとは言い難い状況である。

今回、宝塚市議会の議会報告会を見させてもらったが、西脇市議会の状況とあまり変わらず、パワーポイント等がない点などは、むしろ西脇市議会のほうがやや先駆的であるといえる。その代り、資料として出される定例会ごとの委員会報告書は、詳細に渡る説明が施してあ

り、大変わかりやすいものとなっている。これは、議会が定例会委員長報告で実際使っているものだそうで、この点は評価することができるだろう。

ただ、説明者もこの資料を読むだけ、質問されても「今日は議会報告会なので関係あることだけ…」というのはいかがなものだろうか？「懇談会ではなく報告会だから、報告に関することだけ」としてしまえば、参加者はより面白くないだろうし、これでは市民の足が遠のいても仕方がないもののような気がした。

西脇市議会は、議会報告と懇談会を兼ねたような報告会にしているが、もうひと工夫もふた工夫もしたものにしなければ、参加者の減少は免れない。宝塚市議会の議会報告会の中でも「今後は懇談会も検討している」とは言っていたが、では懇談会をどう行うのかという手法も考えていかなければならないだろう。

例えば、岐阜県の瑞浪市議会などは議会報告の前にテーマを10項目くらい設定し、それをHP上で事前にアナウンスしてから議会報告会に出向いている。

(防災対策の現状と減災対策の取り組み、学童保育の現状と取り組み、市議会の広報広聴活動、わかりやすい議会への取り組み等、多岐に渡っている。)

また、以前からも指摘しているように本当に市内8か所だけで良いのかという問題もある。重春地区にしても板波町公民館で行っても和田町や高田井町の人足運びにくいだろうし、比延地区でいえば鹿野町公民館で行っても住吉町や中畑町の人にとっては気軽に行ける距離ではない。より住民に来てもらいやすい場所と回数、日時などの設定は必要だろう。

もっともこれらのことは改善策を改革小委員会の方で検討をしてもらうことになっているので報告を待ちたい。

いずれにせよ、議会報告会は議会改革の基礎でもある。議会報告会で市民に説明できるような審議にする。議会報告会で市民に納得してもらえるような議決説明責任を果たす。そして、それが信頼される議会に繋がるのである。その為にも日々の研鑽を怠らず、常に真剣な議論をするのである。

また、懇談会での意見も市民からの政策提案として前向きに捉え、対処していく術も磨かねばならないだろう。理事者(行政)は市民に向き合い、我々議会は市民に寄り添う存在としての権能を果たしていかなければならないように思う。

次の5月に行われる西脇市議会報告会を楽しみにしたいものだ。